

なぜ、育成初期にブロイラー種鶏の 群体測をするのか？

定期的に正確な平均体重が分かれば：

- ・ 鶏群に適正量の飼料を給与することができます。
- ・ アウトまですべてのステージで生産を最大限にする、オスメス両方の適正な体重コントロールができます。
- ・ 育雛方法がモニターできます。



育成初期のブロイラー種鶏の群体測の手順

トリの取り扱い

トリは、適切な訓練を受けた人によって、優しく適正な方法で扱われなければなりません。
トリのウェルフェアは常に何よりも優先されます。

機器

1. 10g単位、精度±20g、秤量10kgの電子秤あるいは手動/機械式目盛盤秤。異なる種類の秤の例を下の写真に示します。バケツに入れて使用する群体測用の電子式吊秤と単体あるいは複数のヒナ箱用の上皿秤と吊皿秤などがあります。



2. ペンまたは鉛筆
3. 体重記録用紙
4. 機械式秤を用いるのであれば計算機

注—正確に測定できているか、適正な体重コントロールができているか確認するために、すべての秤は定期的に(測定開始・終了毎)キャリブレーションする必要があります。

方法－0日齢(餌付け)

収容ペン当たり少なくとも3箱を測ります。

ステップ1 測定にどのような秤を用いようと、空箱に蓋を付けて測り、空箱の重量を記録します。



ステップ1

ステップ2 ヒナと箱の重さを知るため、蓋をしたままヒナの入った箱を測り、重量を記録します。

ステップ3 各箱に入っていたヒナの羽数を数え記録します。

ステップ4 平均ヒナ体重を計算します。

ステップ5 測ったすべてのヒナの平均体重をグラフにプロットし、目標と比較します。



ステップ2

計算例:

$$\text{平均ヒナ体重 (g)} = \frac{\text{箱内の総ヒナ体重}}{\text{ヒナ羽数}}$$

$$\text{平均ヒナ体重} = \frac{3200 \text{ g}}{80} = 40 \text{ g}$$

方法－7日齢と14日齢

ステップ1 箱かバケツなど、群体測をする空の容器(一度に10-20羽を測るに十分な大きさの)を秤に乗せ、「ゼロ」設定します。

ステップ2 囲いを用いて、少なくとも2%か50羽(どちらか多い方)のサンプルを囲います。サンプルは、ペンあるいは鶏舎の中央に向かって、側壁やドアから離れたところで異なる2箇所から採ります。



ステップ1

ステップ3 一度に10-20羽を測定容器に入れ、測るたびに総重量と羽数を記録します。ヒナが乗り重なることのないように、決して容器の中にヒナを入れすぎはいけません。



ステップ3

ステップ4 記録が終われば、ヒナを容器から元のペンに戻します。この作業を囲いの中のすべてのヒナを測り終えるまで繰り返します。それによって選別による偏りがなくなります。

ステップ5 測定したすべてのサンプルの総重量を足し、測定総羽数で割ります。

ステップ6 測ったヒナの平均体重を体重記録グラフにプロットし、目標と比較します。



ステップ4

結果の見方

もし予期した増体でなかったり、標準体重曲線から著しく(±50g)外れていたりすると、上と同じ方法を用いて、体重測定の正確さをチェックするために鶏群を再測定します。最初の14日間で正常な週間体重増加(±20g)から外れることは、体重測定のエラーによるものではありません。一般的には、鶏群の育雛方法を修正する必要があることを示しています。

解決策

もし初期の目標体重が達成できなければ、次のことが必要です:

- ・ 舎内の育雛コンディションを測定、モニターそして対応します。
 - ヒナ到着24時間前に鶏舎が予備加温されているかチェック
 - 餌付時、舎内の空気温度がヒナの高さで30℃あるかチェック
 - 最初の3-5日間、舎内の相対湿度が60-70%あるかチェック
 - 餌付時、敷料温度が28-30℃あるかチェック
 - ヒナが十分な新鮮な水を飲むため、1m以上移動しなくてもよいかチェック
 - 育雛域の少なくとも90%以上に紙と/あるいはトレーが敷かれ、良質な篩にかけた克蘭ブルかミニペレットが給与されているかチェック
 - 育雛域の照度が80-100ルクスあるかチェック
 - クロップフィルをチェック
- ・ スターター飼料を目標体重に達するまで続けます。
- ・ 高栄養のスターター飼料を給与します。
- ・ 飼料摂取を促し増体を改善するために、21日齢まで長時間の日長時間にします。

更なる情報

- ・ 管理How To 01;How To クロップフィル調査
- ・ 種鶏ハンドブック